

強者の戦略

そろそろ 2026 年度版の『強者の戦略』が発刊される時期が近づいて参りました。せっかくですので、昨年度の振り返りを行っていきたいと思います。第 1 回の今回は、昨年度の東大合格者の東大英語の解く順番と時間配分を振り返ってみたいと思います。東大を志望校としている人は、どのような解き方があるのか気になるところかと思います。下記の内容を見ていただいて、今後の指針の一つにしていただければ幸いです。

25 年度 東大 理科一類 合格 (本番 73 点/120 点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

1 A (13 分) → 2 (合わせて 20 分) → 4 B 前半 (7 分) → リスニング下読み (5 分) → 4 B 後半 (10 分) → 5 (25 分) → 1 B (10 分) → 4 A (0 分)

英語は苦手なので安定しない 4 A を捨てて時間を確保しました。他は何回か解いて時間配分を決めました。英作は 16~24 分の間であまり安定はしなかったのが最初に回して時間がかかったら 1 B を切る戦術で考えていました。

25 年度 東大 理科一類 合格 (本番 72 点/120 点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

1 A (10 分) → 1 B (10 分) → 2 A (10 分) → 2 B (10 分) → 3 (下見 5 分/リスニング 30 分) → 4 B (15 分) → 5 (25 分) → 4 A (5 分)

基本的には順番通りですが、文法問題の 4 A は最悪勘で当たるので最後に回しました。小説に多めに時間を割きました。

25 年度 東大 理科一類 合格 (本番 93 点/120 点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

自由英作文のテーマを見る → 和文英訳 → 自由英作文 (15 分) → 要約 (5 分) → 空欄補充 → リスニングの下読み → リスニング → 英文和訳 (10 分) → 小説 (20 分) → 間違い探し

東大英語は時間配分が大切です。ネットにもたくさん時間配分の仕方が書いてあるので、自分にあった時間配分を試してみるといいです。自由英作文は英語以前に書く内容を考えるのが一苦労なお題が多いので、先にテーマを見て和文英訳をしながらテーマを考えるのがいいです。僕は英作文にとりかかってペンが動かないようなら先に要約に取り組んでいました。

強者の戦略

25年度 東大 理科一類 合格 (本番 82点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

まず初めに2番の自由英作の問題文を読んでおきます。そしてその直後の英作を10~15分、5番の長文を20~30分で解きます。リスニングの下見を、リスニング開始5分前から行い、リスニングの前後で4Aを10分ほどかけて解きます。1Bの並び替えを15~20分、1Aの和訳を10~15分で解き、残りの時間は自由英作に充てました。本試では自由英作がなかなか思いつかず、文字数が達しませんでした。他の年度の問題では十分に解き終わる時間配分でした。

25年度 東大 理科一類 合格 (本番 56点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

4B (12分) → 5 (28分) → 3の先読み (5分) → 3 (30分) → 2B (10分) → 1B (10分) → 1A (5分) → 2A (15分)

自由英作のテーマなどを確認した後、比較的詰まらずに解ける和訳や長文を先に解いていました。後半では時間の自由が利く要約や自由英作文を書き上げ、ちょうど試験時間いっぱいまで終わるくらいで時間を調整していました。4Aは考えても正答率が低いので時間短縮も兼ねて捨てていました。東大英語は時間制限が厳しいので、英語が苦手な人にとってこのような割り切りは大切だと思います。

25年度 東大 理科二類 合格 (本番 70点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

2A, B (10-20分、とにかく書いて詰まれば切り上げる) → 4B (10-15分) → 1A (10-12分) → 3 (前読み含め33分) → 2A, B (5-10分、残り) → 5 (20-25分) → 2B (10分) → 4A (残り時間)

強者の戦略

25年度 東大 文科一類 合格 (本番 102点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

4 A → 4 B (ここまでで 10 分ほど) → 5 → リスニング下読み → リスニング、その合間に 2 A、2 B → 1 A → 1 B → 5 の残り → 見直し

まず初めに全問に目を通し、2 A の解答を少し考えてから、解き始めるようにしていました。2 A は年度によって解きやすさがかなり違うと思うので、取れたらラッキー、という姿勢で臨み、対策すれば安定して得点しやすい 4 A、4 B でミスをしないよう注意しました。4 A や 4 B でウォーミングアップをしてから、ヘビーな英作文や要約を解くようにしました。

25年度 東大 文科三類 合格 (本番 83点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

まず初めに、点数の変動の激しい 5 番の物語を比較的時間をかけて読んでいました。その後、4 B の和訳をして、前半の 35 分は終わっていました。リスニングは得点源だったため、10 分ほどかけて丁寧に先読みし、焦らないようにしていました。リスニングが始まったら、説明の間に 2 番の自由英作文のお題を読み、軽く考えるようにしていました。リスニングが終わったら、英作文 2 つを 15 分ほどで書き上げ、1 B、1 A の順に各 10 分ほどかけて解き、4 の文法問題は苦手だったので 5 分しかかけず、残り 5 分で見直しをしていました。夏までは違う解き方をしていたので毎回解き終わっていませんでしたが、この解き方にしてからは時間が足りないということはありませんでした。

25年度 東大 文科三類 合格 (本番 73点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

1 A (15 分) → 4 A (5 分) → 4 B (10 分) → 3 (問題先読みで 10 分程度、時間調整) → 2 B (6 分) → 2 A (9 分) → 5 (25 分) → 1 B (5 分)

厄介な 1 A をさっさと終わらせ、リスニングの前には途中で切っても大丈夫な大問を解きました。私は読むのが遅いのでリスニングの先読みはかなり時間をかけ、かつ丁寧にやりました。2 B で英語を書くことに慣れてから、自分でネタを考えないといけない 2 A に突入しました。5 は丁寧に状況を把握することが大事だと思い、25 分程度はかけられるようにしました。1 B は時間がかかる割に得点が低くなる大問だと捉え、最後に適当にマークしようという作戦でした。…が、実際は 2 A で時間を取られまくり、5 を大急ぎで飛ばし読みした結果、1 B に 10 分ほど余り、それなりに考えて答えを出すことができました。

強者の戦略

25年度 東大 文科三類 合格 (本番 84点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

2 A Bを少し見る→4 A→1 B→1 A→5 (途中まで)→3 (下読み5分)→5の続き→4 B→2 B→2 Aの順で解きました。

25年度 東大 文科三類 合格 (本番 78点/120点)

[東大英語を解く順番と時間配分]

受験のテクニックみたいなものは、個人的にはあまり好きではなく、解く順番を変えても結局は意味がないと思っていたので、最初から最後まで大問の順通りに解きました。時間配分としては、できるだけ要約や簡単な記号問題などは早く終わらせて、英作文や和訳、物語文に時間を多めに取ろうとは意識しました。